

大田区保護司会 第五分区 “社会を明るくする運動” 号外



“社会を明るくする運動”

大田区保護司会 第五分区 地域活動部長 武原 泉

現在私は大田区保護司会第五分区で地域活動部長をさせて頂いています。地域活動部では、蒲田東地区地域集会・六郷地域集会・区民のつどい等を通して社会を明るくする運動を推進しています。

例年では蒲田東地区地域集会で作文発表が行われていましたが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響でパネル展での発表となり加えて作文を広報誌に載せていくことになりました。

本年度都立蒲田高校の生徒さんたちが作文を通して社会を明るくする運動を考える機会を持ってくれたことで、これからの日本の犯罪のない社会が築ける礎になると信じています。

私達保護司も犯罪者と向き合い、立ち直りに協力して再犯させないで社会を明るくするよう努力していきます。どうぞ今後も地域の方々に益々のご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



ごあいさつ

大田区 蒲田東特別出張所長 塚本 靖章

大田区保護司会第五分区の皆様、こんにちは。本年4月から蒲田東特別出張所長に着任しました塚本と申します。

社会を明るくする運動は今年で71回目を迎えます。蒲田東地区におかれましては、大田区保護司会第五分区が中心となり、地域集会をはじめとする様々な取組みを積み重ねてこられ、地域全体で立ち直りを支えていく温かい地域づくりに努めていただきましたことに大変感謝しております。

しかし、現在はコロナ禍のなか、社会を明るくする運動においても活動やイベントが大きく制限されております。こうした状況の中、今年度は都立蒲田高校の生徒2名に日常生活や学校生活での体験をもとに大変すばらしい作文を書いていただきました。この作文は大田区保護司会第五分区のご紹介とともに7月9日から26日までの間、蒲田東特別出張所内に展示させていただき、来庁された多くの方にご覧いただくことができました。

今後も地域の皆様力を合わせて安全で安心な地域社会を築いていくため、社会を明るくする運動にご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い致します。



ごあいさつ

都立蒲田高等学校長 松本 治子

この4月から都立蒲田高等学校の校長として着任しました松本治子と申します。第71回社会を明るくする運動の開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。

本校は、昭和53年に大田区蒲田で開校して以来、地域に根差した都立高校として、教育活動への多大な御理解と御支援を賜り、1万人を超える有為な人材を社会に輩出してまいりました。

この度、本運動の取組の一環として実施されました作文コンテストにおいて、本校生徒が日常の家庭生活や学校生活の中で体験したことを基に、犯罪や非行のない地域社会づくりを目指して書き上げる機会を与えていただきました。

感謝状贈呈式に当たっては、大田区蒲田東特別出張所塚本靖章所長の御臨席を賜り、蒲田東地区自治会連合会小山君子会長から直接本校生徒に授与くださり、生徒の励みとなりました。

次代を担う子供たちが、我が国を支える社会の一員として、安心して暮らすことができる地域づくりに貢献できるよう、今後も本運動の一層の発展と、皆様には引き続き地域の子供たちの成長や社会的自立を見守っていただくことをお願いし挨拶いたします。

地域社会をより良くするために

都立蒲田高等学校三年 松原 大樹



今私は、蒲田はとても明るく住みやすく、生活がしやすい、いい場所だと思っています。しかしそんな蒲田が今よりもっとより良い地域になるにはどうしたらいいかを私は考えました。現在、蒲田では自転車の不法投棄が多いことと、地域のいたる所にゴミが落ちているという二つの問題があると思います。普段、私が普通に生活している中で実際にたくさんのゴミが落ちていたりして、汚れが目立つことがありました。そこで私は、主にこの二つの問題の解決を考え、蒲田をより良い地域にしたいと思いました。

まず自転車の不法投棄問題は、とてもよくないことは誰が見て、聞いても分かると思います。しかし、蒲田では自転車の不法投棄がなくならず、地域に悪影響があります。それでは、蒲田という地域に対しての印象が悪くなり、さらには、地域に住む人に迷惑がかかってしまいます。そこで私は、自転車を持っている人を対象に、自転車の処理ができる場所の通知をすることで不法投棄が減ると思いました。また、不法投棄が減らないのであれば、刑罰で罰金などという対応をしていくと今よりもっと自転車の不法投棄が減り、より良くなると思いました。

もう一つの問題であるゴミが地域に捨てられていることについてです。日常生活で道路を歩いていると、当然かのようにゴミが落ちていることが多くあると思います。ゴミはゴミ箱や決められた場所に捨てるという当たり前のことができている人がいます。私は、その人たちがなぜ何も考えずに普通に道路にゴミを捨ててしまうのか考えました。その理由は、日ごろから歩いている道路にゴミがすでに落ちていることが問題だと思いました。自分以外の人もやっているのだからやってもいいという考えを持つ人がいると思います。だから道路にゴミを捨ててしまうのだと思います。しかし、道路にゴミがなければ、そういった考えを持っていたとしても、捨てなければならないところに捨てると思いました。ゴミ拾いのボランティア活動の強化をすることで、今よりも道路がきれいになり、ゴミを捨てる人が減ると思います。強化の方法は、今より回数を増やすことはもちろん、ボランティアの活動範囲を広げたり、ポイ捨て禁止の呼びかけをすると、解決すると思います。

私はこのような問題に地域の方々と協力して取り組み、少しずつでも、今よりもっと良い、住みやすい地域を作っていきたいと思いました。私自身の生活も見直し、身の回りからでもきれいにしていきたいと思いました。

作文発表

地域社会をより良くするために

都立蒲田高等学校三年 小見 颯太

蒲田高校は、一年時に、体験授業といって地域や専門の講師の先生をお呼びして和太鼓やバスケ、ゴミ拾いなど、それ以外にも色々なことを体験できる授業を設けています。それぞれ、やりたいことを選択できるのも自分はいいい点だと思います。基礎基本の定着、蒲田高校は、少人数授業などを多く用いて、学力の定着を図るという工夫などを行っています。

規律ある生活指導、制服着用指導を行い、きちんとした服装で学校生活を送るように、先生方が厳しく指導します。保護者にも品のある生活を保つよう、協力を得ながら指導します。それ以外にも髪形やピアス、自転車などにも厳しく細かく指導しています。

部活動は、入る、入らないは自由だが、三年生のやる気はとても迫力があると思います。また、保育園の子供たちともフェンス越しではあるものの少しふれあったりすることができたり、できなかつたりします。

コロナ対策もしっかりとしていて、朝学校に来て上履きを履いた後、熱感知ができるようになってきているのと、消毒があります。各教室の前にも消毒液が置いてあります。保健委員が消毒を管理していて、放課後に取り替えたりしています。また、授業終わりに先生方が教室の椅子と机を消毒してくれています。

三年時には、宿泊防災訓練を行っています。毎年、三年生になると一泊二日の宿泊防災訓練を行っています。蒲田消防署の方々が来て下さり、スタンドパイプ、D級可搬ポンプ、消火器訓練、応急救護訓練など様々なことを、生徒たちを飽きさせないように教えてくれます。

また、自助と共助についても詳しく教えて下さり、普段の生活にも関係してくるような大切な話をしていただき学びを深めることができます。他にも、夕食、昼食は非常食だったり、寝具を配る訓練を行ったりします。

この先使うことが絶対にあると思うので、こういう経験ができる場があることはとても有難いことだと思います。残念ながら今年度はコロナの影響で毎年やっているような宿泊という形での防災訓練を行うことはできませんでした。煙体験と初期消火訓練、応急救護の訓練の三つしか受けることはできなかったが、どれも貴重な体験で、受けてよかったと思える内容で本当に良かったです。時間がない中で「自助」と「共助」についての意識もしっかりと教えて下さり、訓練の大切さについても教えていただけたのでそこも良かったです。

コロナで、毎年やっているようにやっていることができなくなっている中で、どのようにすれば感染リスクを少なくし、大切な授業、大切な講話が受けられるか、先生たちのコロナ対策への意識の高さが、今の蒲田でクラスターを発生させず学校で授業を受けられている現状なので、今はそのこと自体が地域をより良くするための取り組みではないのでしょうか。



編集後記

今回、コロナ禍ということで、初めて広報誌を作成いたしました。作文を発表していただきました蒲田高校2名の生徒さんはじめ学校関係者の皆様、行政の皆様、ご協力ありがとうございました。これからも学校・地域・保護者連携して明るい社会を築き上げましょう。